

知恵の輪から知恵の『和』へ

～平成20年度地区懇談会～

11月18日(火)、中央地区連合町内会を皮切りに地区懇談会が始まりました。

この地区懇談会は、住環境や地区の活性化、地区が抱える問題などについて、各地区連合町内会や地域住民の方と市長以下市の幹部職員が懇談を行うとともに、市が取り組んでいる主要施策や計画などの市政情報の提供、市と地域住民がまちづくりについての意見交換を目的に開催しているものです。

市側からは、あらかじめ町内会側から提出された懇談会テーマ『まちづくりへ向けて、市長と意見交換したい事項（住環境や地区の活性化、地区が抱える問題など）』に対する市長の考え方や市の対応などについての回答を行い、これに対し町内会側から意見や要望などが出されました。

また、町内会側からは、イベントによる地域活性化の取り組みや花いっぱい運動などのまちづくり活動についての発表が行われました。

各会場とも、地域住民の方からまちづくりや市政を良くして行くためのきっかけとなるような貴重な意見や質問があり、協働のまちづくりへ向けた新たなスタートを切りました。



まちの風物詩、今年も点灯

～シンボルオブジェ『光のしずく』点灯～



11月23日(日)、登別地区のまちづくりに取り組む『登別まちづくり促進期成会』がJR登別駅前に設置したシンボルオブジェ『光のしずく』の点灯を行いました。

同期成会内の『キラキラ部会』が中心となり、今冬で10回目。7年前からは『アイヌ神謡集』を著した地域ゆかりのアイヌ女性・知里幸恵にちなみ雨滴形にし、発光ダイオード（LED）約4,000個のまばゆい光が町を照らしています。

光のオブジェは、今年2月末までの毎日、日没から23時まで点灯され、観光客や市民の目を楽しませています。

できました。手づくり正月しめ飾り

～正月しめ飾りづくり体験～

12月13日(土)、郷土資料館併設の文化伝承館で体験学習の『正月しめ飾りづくり体験』（市主催）が行われ、小学生から大人まで30人が参加しました。

この催しは、新年へ向けて期待や家族の健康を祈り心を込めてしめ飾りづくりの体験をしてもらうことを目的に、毎年この時期に開催され今回で13年目になります。

郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の指導を受けながら、スゲや紙、プラスチックなどの飾りを使い、正月用のしめ飾りを40～50分程で作りました。

出来上がったしめ飾りを前に、親子で苦労話や自分たちだけのしめ飾りを前にうれしそうにほほ笑んでいました。

参加者は、「スゲで縄を編むのが大変でしたが、すごく楽しかったので、また作ってみたいと思います」と話していました。

